

科目名 (英)	職業人教育	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	富樫裕一
	( Professionals Education)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	180 12	開講区分	前期
学科・コース	こども保育科						
教員の略歴	宮城教育大学大学院修士課程修了、昭和52年～平成7年幼稚園教諭として勤務、その後専門学校専任教員を務め、大学・専門学校非常勤講師						
授業の学習内容	挨拶、ことば遣い、手紙の書き方、職場での振る舞い等現場ですぐに必要なマナーやスキルについて、実践的に学ぶ。						
到達目標	社会人としての基本的なマナーを身につけ、対人援助職にふさわしい人間性を養う。						
評価方法と基準	定期テスト70% 授業内評価 30%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	5/11	オンライン講義	コミュニケーションとは 他者と		
2	5/18	オンライン講義	コミュニケーションとは 自己と思考		
3	5/25	オンライン講義	最近のモンスターペアレンツと対応		
4	6/1	オンライン講義	こころの処方箋①強さよりもしなやかさ		
5	6/8	オンライン講義	こころの処方箋②強さよりもしなやかさ		
6	6/15	オンライン講義	実習に向けての確認、発送		
7	6/22	オンライン講義	実習日誌の確認		
8	7/13	オンライン講義	絵本の選択 お礼状の書き方		
9	7/20	オンライン講義	実習先へのお礼状送付、確認		
10	7/27	オンライン講義	パーソナリティの心理		
11	8/3	オンライン講義	人格検査法		
12	8/17	オンライン講義	交流分析とエゴグラム		
13	8/24	オンライン講義	無意識のはたらき		
14	8/31	オンライン講義	まとめ		
15					
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】 □ Hand-book of Life Style 他					

科目名 (英)	職業人教育 ( )		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	富樫裕一
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	180 12	開講区分	後期
教員の略歴	宮城教育大学大学院修士課程修了、昭和52年～平成7年幼稚園教諭として勤務、その後専門学校専任教員を務め、大学・専門学校非常勤講師							
授業の学習内容	自己について認識することにより、今何が必要で何をしなければいけないか自己認知する。							
到達目標	自分の長所短所をこれまで以上に理解しその為のコントロール抑制方法について知る。							
評価方法と基準	レポート 70% 授業内評価 30%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10/19	講義	自己評価	
2	10/19	講義	自我同一性	
3	10/26	講義	自分をいかす	
4	11/2	講義	対人関係の心理	
5	11/2	講義	対人態度を知る	
6	11/30	講義	人へのとまどい	
7	11/30	講義	実習への日誌その他確認	
8	12/7	講義	実習の反省及びお礼状作成	
9	12/14	講義	人との関わり方	
10	1/18	講義	感情と感情表出	
11	1/18	講義	心と体の健康	
12	1/25	講義	就職活動について (キャリアセンター)	
13	2/1	講義	3年生からの話 (就職内定者)	
14	2/22	講義	就活に必要なこと	
15	3/1	講義	就活に必要なこと	
16	3/8	講義	就活に必要なこと	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
Hand-book of Life Style 他				

科目名 (英)	音楽表現技術		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	富樫範子
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期・集中 曜日・時限
教員の略歴	国立音楽大学卒業後、幼稚園教諭、知的障害者施設の音楽講師を務める。							
授業の学習内容	保育現場で活かすことのできる音楽技術の習得							
到達目標	保育者として子どもに歌い聴かせるための声楽の基礎を学ぶとともに、基本歴な音楽理論を理解する。 弾き歌いに必要な、鍵盤楽器の基礎を身につける。							
評価方法と基準	授業の受講姿勢(20%) 課題の到達度(40%) 実技試験(40%)							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	1/20	演習	歌う、聴く、弾くの活動の確認	内容を理解し、音楽表現の向上と表現方法を検討する
2	1/20	演習	記録表 ピアノ①の確認	内容を理解し、音楽表現の向上と表現方法を検討する
3	1/20	演習	記録表 声楽の設題1・2・3	内容を理解し、音楽表現の向上と表現方法を検討する
4	1/20	演習	記録表 ピアノ②の確認	内容を理解し、音楽表現の向上と表現方法を検討する
5	1/20	演習	記録表 ピアノ②の確認	内容を理解し、音楽表現の向上と表現方法を検討する
6	1/27	演習	記録表 声楽 設題4	内容を理解し、音楽表現の向上と表現方法を検討する
7	1/27	演習	記録表 声楽 設題5	内容を理解し、音楽表現の向上と表現方法を検討する
8	1/27	演習	記録表 声楽 設題6	内容を理解し、音楽表現の向上と表現方法を検討する
9	1/27	演習	試験課題発表	内容を理解し、音楽表現の向上と表現方法を検討する
10	1/27	演習	実技試験	内容を理解し、音楽表現の向上と表現方法を検討する
11	／			
12	／			
13	／			
14	／			
15	／			
準備学習 時間外学習			記録表 ピアノ①②が終了していること	
【使用教科書・教材・参考書】 音楽 ピアノ教本 声楽教本				

科目名 (英)	幼児と健康 (Infant and the environment)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	佐藤 一樹
学科・コース	こども保育科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15(1)	開講区分 曜日・時限	集中
教員の略歴	上級障がい者スポーツ指導員、障がい者フライングディスク第1種審判員						
授業の学習内容	幼児期に必要な運動遊びのレポーターを習得し、指導に必要な保育技術を学ぶ。						
到達目標	運動あそびの支援方法を活用できるように実践力を身に身に付ける 子ども意欲を引き出す環境構成について理解を深める 運動時に起こりうるリスクについての対応力を身に付ける						
評価方法と基準	レポート80% 授業内課題20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	体育の意義、役割を理解し、内容および方法を理解する。	学習内容を理解する
2		演習	おにごっここの発達段階に応じた運動あそびの展開方法について理解を深める	学習内容を理解する
3		演習	ドッチボールの発達段階に応じた運動あそびの展開方法について理解を深める	学習内容を理解する
4		演習	環境設定とはどのようなものか話し合い、理解を深める	学習内容を理解する
5		演習	様々な運動あそびを行う上でどのようなリスクマネジメントが必要か考察をする	学習内容を理解する
6		演習	移動遊具を使った運動あそびを行う際の補助の方法について理解を深める	学習内容を理解する
7		演習	グループ毎に指導案を作成する	学習内容を理解する
8		演習	グループ毎に作成した指導案の実践発表をする	学習内容を理解する
9		演習	グループ毎に作成した指導案の実践発表をする	学習内容を理解する
10		演習	運動あそびの実践についてグループで振り返る	学習内容を理解する
11				
12				
13				
14				
15				
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □ 適宜資料を配布。				

科目名 (英)	保育原理	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	富樫 裕一
	( Childcare Principle )	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 金 曜日2限
学科・コース	こども保育科						
教員の略歴	宮城教育大学大学院修士課程修了、昭和52年～平成7年幼稚園教諭として勤務、その後専門学校専任教員を務め、大学・専門学校非常勤講師						
授業の学習内容	様々な西洋、及び日本における保育思想と児童観の変遷を通し、日本における幼稚園、保育所等の成立とそれに関する人物及び変遷について学ぶ。 また、保育に関する概略的な知識について学ぶ。						
到達目標	①自分の子ども観、保育観についての概観を知る。 ②保育に関する概略的な知識を知る。						
評価方法と基準	定期試験(60%)レポート課題(30%)授業内評価(10%)						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	5/11	オンライン講義	乳幼児の特質と保育の意義を理解する		学習課題2枚(アマラとカマラまとめ)
2	5/18	オンライン講義	〃		1枚(まとめ)
3	5/25	オンライン講義	乳幼児の発達の特徴を考える		2枚(性善説・性悪説) 連休中の課題
4	6/1	オンライン講義	保育思想と児童観(西洋編)を知る		1枚(あなたの中の別の人の声)
5	6/8	オンライン講義	保育思想と児童観(日本編)を知る		1枚(七五三はなぜやるの)
6	6/15	オンライン講義	近代保育の創設・発展(日本)を知る		1枚(保育用語を調べてみよう)
7	6/22	オンライン講義	まとめ及び夏休みの課題の発表		
8	6/29	オンライン講義	我が国における幼稚園の成立と変遷		
9	7/6	オンライン講義	我が国における保育所の成立と変遷		
10	7/13	オンライン講義	保育の目的		1枚(遊びについて)
11	7/20	オンライン講義	保育の計画・評価遊びなどを知る		1枚(先生としての信用とは)
12	7/27	オンライン講義	保育の目的・方法		1枚(先生としての覚悟)
13	8/3	オンライン講義	保育の計画・評価		授業の内容を理解する
14	8/17	オンライン講義	子育て支援・保育の多様化		
15	8/24	オンライン講義	保育の今日的課題とまとめ		
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】 □ 国語辞典・幼稚園教育要領・保育所保育指針					

科目名 (英)	幼児への特別な支援 ( Disabled Children Childcare )		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	富樫裕一
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期
教員の略歴	宮城教育大学大学院修士課程修了、昭和52年～平成7年幼稚園教諭として勤務、その後専門学校専任教員を務め、大学・専門学校非常勤講師							
授業の学習内容	知的障害の特徴と保育での支援等については先にスクーリングで学習及び実際に見学に行ってきたが、今回は、その他の障害の特徴と保育での支援について学び、障害児保育に関する支援を学ぶ。							
到達目標	障害の種類について全体をつかみ、それぞれの障害に対して、どのような支援の方法が考えられるか、具体例を示しながら学習することを目標とする。							
評価方法と基準	定期テスト70% 平常点30%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	8/21	講義	人間行動理解の観点、視覚障害児	
2	8/28	講義	聴覚障害児、肢体不自由児	
3	9/4	講義	言語障害児、体制作り	
4	9/11	講義	支援の方法、家族への支援	
5	10/23	講義	障害児のアセスメント①	
6	10/23	講義	障害児のアセスメント②	
7	11/20	講義	発達支援の技法①	
8	11/27	講義	発達支援の技法②	
9			レポート	
10				
11				
12				
13				
14				
15				
準備学習 時間外学習			近大レポート課題+科目終末試験	
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	障害児保育 (Disabled Children Childcare)		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	富樫裕一
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15(1)	開講区分	月曜・3限
教員の略歴	宮城教育大学大学院修士課程修了、昭和52年～平成7年幼稚園教諭として勤務、その後専門学校専任教員を務め、大学・専門学校非常勤講師							
授業の学習内容	子どもの心身・脳の発達、知的・身体的障害について理解を深め、保育的援助について学ぶ。							
到達目標	子どもの心身・脳の発達、知的・身体的障害について理解を深め、特別な支援について理解する。							
評価方法と基準	出席、授業態度、ならびに筆記試験結果を総合して評価する							

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	9月18日	講義	知的障害・肢体不自由について理解する		
2	9月18日	講義	聴覚障害・視覚障害について理解する		
3	9月18日	講義	重度重複障害について理解する		
4	9月18日	講義	発達障害について理解する		
5	9月18日	講義	障害児の発達検査について理解する		
6	9月25日	講義	保護者の障害受容と展望について理解する		
7	9月25日	講義	関係機関との連携について理解する		
8	9月25日	講義	幼児期体験と障害児の育ちについて理解する		
9	9月25日	講義	幼児期体験と障害児の育ちについて理解する		
10	9月25日	講義	幼児期体験と障害児の育ちについて理解する		
11					
12					
13					
14					
15					
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】 □					

科目名 (英)	子どもの食と栄養 ( Food and Nutrition of Child )		必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	千石 祐子
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 ( 2 )	開講区分	前期金曜日・2 限
教員の略歴	管理栄養士 宮城県仙台市保健福祉センター嘱託							
授業の学習内容	小児期の健やかな成長と生涯にわたる健康の第1歩となる食、栄養に関する基本的な知識と子どもの発育発達という特徴を踏まえて学習する。また子どもの食生活は発達のみならず心身の健康にも影響が大きいため栄養学的特性を学び、適した食物の摂取や食育指導方法を習得する必要がある。また家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学び特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解を深める。							
到達目標	①健康な生活を基本として食生活の意義を学び基本的知識を学ぶ。 ②子どもの発育発達に合わせた食生活とその意義実戦について理解する。 ③食育を行うための基礎知識を学びその重要性を理解する。 ④家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 ⑤特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。							
評価方法と基準	試験 70% レポート 20% 授業態度 10%							

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	5/22	オンライン講義	オリエンテーション 成人期とは違う子どもの栄養と食生活の特性を学ぶ		
2	5/29	オンライン講義	子どもの食生活の現状と課題について理解する		配布したプリントの内容を復習する
3	6/5	講義	栄養の基礎知識 ① 消化のしくみと栄養の取り組みについて理解する。糖質・脂質・たん		P20～P29を読んでくる
4	6/12	講義	栄養の基礎知識 ② 消化のしくみと栄養の取り組みについて理解する ミネラル・水分		P20～P29を読んでくる
5	6/19	講義と演習	発育、発達のために何をどれ位食べれば良いかを学ぶ		2日分の食事記録を書いてく
6	6/26	講義	子どもの身体発育や発達について理解する		P40～47まで読んでおく
7	7/10	講義	子どもの食べる機能について理解する		P47～P52を読んでおく
8	7/17	講義	妊娠の経過と妊婦の食生活について理解する		妊娠中の食事について考える
9	7/31	講義	妊娠期のトラブルに対応するための食事について理解する		P65～P72を読んでおく
10	7/31	講義	母乳栄養の特徴を知り保育者としての関わりを考える		配布したプリントの内容を復習する
11	8/7	講義	人工栄養の特徴を理解し調乳方法を学ぶ。		人工栄養の種類を調べる
12	8/7	講義	離乳食の必要性と役割を学ぶ		授業時に配布した内容を復習する
13	8/21	講義	幼児期の心身の発達と食生活の関わりを学習する		幼児のお弁当を考える
14	8/28	講義	試験		
15	9/11	講義と演習	まとめ		
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】 □					
子どもの食と栄養 二見 大介 高橋 陽 編者					



科目名 (英)	子どもの食と栄養 (Food and Nutrition of Children)		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	千石 祐子
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15(1)	開講区分	集中 曜日・時限
教員の略歴	管理栄養士 宮城県仙台市保健福祉センター嘱託							
授業の学習内 容	小児期の健やかな成長と生涯にわたる健康の第1歩となる食、栄養に関する基本的な知識と子どもの発育発達という特徴を踏まえて学習する。また子どもの食生活は発達のみならず心身の健康にも影響が大きい。栄養学的特性を学び、適した食物の摂取や食育指導方法を習得する必要がある。また家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学び特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解を深める。							
到達目標	①健康な生活を基本として食生活の意義を学び基本的知識を学ぶ。 ②子どもの発育発達に合わせた食生活とその意義実践について理解する。 ③食育を行うための基礎知識を学びその重要性を理解する。 ④家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 ⑤特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。							
評価方法と基準	実習態度(20%) 実習レポート(20%) 前期試験 (60%)							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	8月8日	講義	育児用ミルクの種類と特徴について理解する	学んだことを理解する
2	8月8日	講義	調乳実習にて乳児の食事を作る	学んだことを理解する
3	8月8日	講義	離乳食の意義と栄養について理解する	学んだことを理解する
4	8月8日	講義	離乳食実習を通して初期から完了期までの食事を理解する	学んだことを理解する
5	8月8日	講義	離乳食実習を通してだしの取り方を学ぶ	学んだことを理解する
6	8月9日	講義	幼児期の栄養について理解する	学んだことを理解する
7	8月9日	講義	幼児食実習を通してバランスの良いお弁当について理解する	学んだことを理解する
8	8月9日	講義	幼児食実習を通してバランスの良いお弁当を考案する	学んだことを理解する
9	8月9日	講義	小児期の食生活について理解する	学んだことを理解する
10	8月9日	講義	間食について理解する	学んだことを理解する
11				
12				
13				
14				
15				
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	子どもの保健 (Children's Health )	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	粉川 妙子
学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30(2)	開講区分	前期 月曜・1限 曜日・時限
教員の略歴	助産師、保健師、看護師 宮城教育大学大学院学校教育専攻修士課程修了 養護教諭経験15年以上						
授業の学習内容	小児の健康状態の観察、乳幼児の養護、小児の疾病とその予防対策、事故と安全対策などの健康障害に関する知識の習得とその対策について学ぶ。また、救急処置や集団保育における健康管理の知識を習得し、日常の保育活動の場で実践できる能力を身につける。さらには、保育所と家庭の連携の重要性と保護者支援についても学ぶ。						
到達目標	少子化・核家族化の現代社会の中で、子どもを健やかに育てるために小児保健の基礎的な知識を理解する。子ども健康、疾病について具体的に学習する。 ・子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境が理解できる。 ・子どもの疾病やその予防及び適切な対応について具体的に理解できる。 ・現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解できる。						
評価方法と基準	期末試験70%、課題提出20%、受講態度10%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	6月8日	講義	子どもの健康状態の観察及び把握をする		学んだことを理解する
2	6月15日	講義	子どもの病気と保育について主な症状(発熱、腹痛など)を学ぶ		学んだことを理解する
3	6月29日	講義	子どもの病気と保育について主な症状を学ぶ		学んだことを理解する
4	6月29日	講義	子どもの病気と保育について主な症状を学ぶ		学んだことを理解する
5	7月6日	講義	子どもの病気と保育について主な症状を学ぶ		学んだことを理解する
6	7月6日	講義	子どもの病気と保育について感染症を学ぶ		学んだことを理解する
7	7月13日	講義	子どもの病気と保育について感染症を学ぶ		学んだことを理解する
8	7月20日	講義	救急処置について子どもの事故の特徴と主なケガ(症状)を学ぶ		学んだことを理解する
9	7月27日	講義	救急処置について子どもの事故の特徴と主なケガ(症状)を学ぶ		学んだことを理解する
10	8月3日	講義	保健活動の基本・施設の特性と保健を学ぶ		学んだことを理解する
11	8月17日	講義	保健管理計画とその体制について学ぶ		学んだことを理解する
12	8月24日	講義	保育環境の意義・母子保健(乳幼児健康診査)について学ぶ		学んだことを理解する
13	8月31日	講義	家庭(保護者)との連携について学ぶ		学んだことを理解する
14	8月31日	講義	健康教育テーマ・保健だよりについて学ぶ		学んだことを理解する
15	9月7日	講義	まとめ		学んだことを理解する
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】 □ 松田博雄編『子どもの保健 I』(中央法規)					

科目名 (英)	子ども家庭支援の心理学 ( Psychology of Child Family Support)		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	富樫裕一
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
教員の略歴	宮城教育大学大学院修士課程修了、昭和52年～平成7年幼稚園教諭として勤務、その後専門学校専任教員を務め、大学・専門学校非常勤講師							
授業の学習内容	人間のライフサイクルにおけるそれぞれの発達の特徴や課題を明らかにするとともに、その中での家族、家庭の意義と機能の変化について理解する。							
到達目標	家族、家庭における機能の変化と問題点について理解し、そのための支援の方法について考えられるようにする。							
評価方法と基準	定期テスト70% 平常点30%							

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	5/14	オンライン講義	第一講 乳児期の発達		
2	5/15	オンライン講義	第二講 幼児期の発達		
3	5/21	オンライン講義	第三講 学童期の発達		
4	5/22	オンライン講義	第四講 青年期の発達		
5	5/28	オンライン講義	第五講 第六講 成人、老年期		
6	5/29	オンライン講義	第七講 家族・家庭の意義と機能		
7	6/4	講義	第八講 家族関係・親子関係の理解		
8	6/5	講義	第九講 子育ての経験と親としての育ち		
9	6/11	講義	第十講 子育てを取り巻く社会的状況		
10	6/12	講義	第十一講 ライフコースと仕事・子育て		
11	6/18	講義	第十二講 多様な家庭とその理解		
12	6/19	講義	第十三講 特別な配慮を要する家庭		
13	6/25	講義	第十四講 子どもの生活・生育環境		
14	6/26	講義	第十五講 子どものこころの健康		
15	7/2	講義	テスト、まとめ		
準備学習 時間外学習			近大レポート課題+科目終末試験		
【使用教科書・教材・参考書】 □					

科目名 (英)	教育相談 ( Educational Counseling )		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	富樫裕一
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
教員の略歴	宮城教育大学大学院修士課程修了、昭和52年～平成7年幼稚園教諭として勤務、その後専門学校専任教員を務め、大学・専門学校非常勤講師							
授業の学習内容	カウンセリング理論について知り、その理論をもとに様々なカウンセリング技法の方法について知る。また子ども及び保護者とのかかわりの中で具体的な方法を知る。							
到達目標	カウンセリング理論及び技法を知ることにより、子どもや保護者とのかかわりの中で具体的な方法を知る。							
評価方法と基準	定期テスト70% 平常点30%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	7/3	講義	第一章 より良い子育て支援のために	
2	7/9	講義	第二章 カウンセリング理論①	
3	7/10	講義	第二章 カウンセリング理論②精神分析	
4	7/16	講義	第二章 カウンセリング理論③アドラー	
5	7/17	講義	第二章 カウンセリング理論④ユング、交流	
6	7/30	講義	第二章 カウンセリング理論⑤行動論理、フリード 第三章①	
7	7/30	講義	第三章②カウンセリング技法	
8	8/6	講義	第四章 日常の保護者との関わり方①	
9	8/6	講義	第四章 日常の保護者との関わり方②	
10	8/20	講義	第五章 養育困難を抱える保護者支援①	
11	8/20	講義	第五章 養育困難を抱える保護者支援②	
12	8/27	講義	第六章 障害のある子どもの保護者支援 第 七章①	
13	8/27	講義	第七章 精神疾患の疑いのある保護者の理解 ②	
14	9/3	講義	総合的な観点で調べる	
15	9/3	講義	テスト、まとめ	
準備学習 時間外学習			近大レポート課題+科目終末試験	
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	教育実習事前事後指導 (Teaching Practice Pre-Post Guidance)		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	富樫 裕一
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	集中
教員の略歴	宮城教育大学大学院修士課程修了、昭和52年～平成7年幼稚園教諭として勤務、その後専門学校専任教員を務め、大学・専門学校非常勤講師							
授業の学習内容	幼稚園実習に向けた心構えや準備に関する基礎知識を理解し、実習の目的や意義を確認する。							
到達目標	ロールプレイを通して、みんなの前で自己紹介ができるようになる。 幼稚園と保育所の1日の流れがわかる。 実習の目的や意義について確認する。							
評価方法と基準	実技(60%)レポート(30%)授業態度(10%)							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10/30	講義	幼稚園実習の目的意義を知る	学習内容を理解する
2	10/30	講義	自己紹介のロールプレイを行う	学習内容を理解する
3	10/30	講義	幼稚園の1日の流れを知る	学習内容を理解する
4	10/30	講義	実習の目的や意義を知る	学習内容を理解する
5	10/30	講義	実習日誌の記録について理解する	学習内容を理解する
6	/			
7	/			
8	/			
9	/			
10	/			
11	/			
12	/			
13	/			
14	/			
15	/			
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □ 国語辞典				

科目名 (英)	保育実習事前事後指導 I (保育所)	必修 選択	必修・選択必修・選択等	年次	2年	担当教員	前田有秀
	(Childcare Training Pre-Post Guidance I Nursery)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15コマ (1単位)	開講区分	集中
学科・コース	こども保育科						
教員の略歴	①認可保育園保育士(19年) ②尚綱学院大学総合人間科学部子ども学科専任教員(保育実習指導歴6年)						
授業の学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習 I (保育所)をより良い経験とするため、実習の意義や基本姿勢、実習で求められる実習日誌や指導案の基本的な書き方、設定保育における保育の進め方等を実践的に展開し、実習準備を進めていく。</li> <li>・実習後は保育実習 I での経験をより深めるため、事後課題をまとめる。</li> </ul>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習の意義や目的を理解し、望ましい態度や心構えを身に付ける。</li> <li>・保育実習に必要な知識や技術等を習得する。</li> <li>・実習の総括と自己評価から、今後の実習に向けての課題を明確にする。</li> </ul>						
評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各回の授業への取り組み・態度・振り返り等 40%</li> <li>・課題(実習日誌・保育指導案等)の作成・提出・内容等 40%</li> <li>・実習事後レポート 20%</li> </ul> 上記の各項目を総合して60点以上を単位認定とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9月19日	講義・演習	所実習 I の意義・目的・目標が理解できる	テキストの該当する箇所を予習すること
2	9月19日	講義・演習	実習日誌の目的と書き方が理解できる	テキストの該当する箇所を予習すること
3	9月19日	講義・演習	設定保育(部分実習)が理解できる	部分実習の内容を考えておくこと
4	9月19日	講義・演習	保育指導案を理解し立案することが出来る	テキストの該当する箇所を予習すること
5	9月19日	講義・演習	実習への準備と事後課題について理解できる	実習前の注意事項を確認しておくこと
準備学習 時間外学習			指示された課題のみならず、関連する科目・内容を振り返り、自主的に実習準備を進めること	
<b>【使用教科書・教材・参考書】 □</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小櫃智子編著『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』わかば社, 2017年</li> <li>・片山紀子編著『新版 保育実習・教育実習の設定保育』朱鷺書房, 2013年</li> <li>・『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』文部科学省・厚生労働省・総務省, フレーベル社, 2018年</li> </ul>				

科目名 (英)	ピアノ実技 ( Piano prectical skill )		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	富樫範子
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 4	開講区分	前期
教員の略歴	国立音楽大学卒業後、幼稚園教諭、知的障害者施設の音楽講師を務める。							
授業の学習内容	子ども向けの歌の簡易伴奏法や、保育実践において必要な技術を習得する。							
到達目標	習熟した音楽技術を用いて音楽性を高める努力をしつつ、保育現場において子ども達の音楽活動を適切に導くために必要な知識や技術を習得する。							
評価方法と基準	授業の受講姿勢(20%) 課題の到達度(40%) 実技試験(40%)							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	6/4	演習	オリエンテーション(授業の進め方の説明)	歌う、弾くの反復練習
2	6/11	演習	指定曲のピアノ演奏、季節・生活・こどもの歌の弾き歌い	歌う、弾くの反復練習
3	6/18	演習	指定曲のピアノ演奏、季節・生活・こどもの歌の弾き歌い	歌う、弾くの反復練習
4	6/25	演習	指定曲のピアノ演奏、季節・生活・こどもの歌の弾き歌い	歌う、弾くの反復練習
5	7/2	演習	指定曲のピアノ演奏、季節・生活・こどもの歌の弾き歌い	歌う、弾くの反復練習
6	7/9	演習	指定曲のピアノ演奏、季節・生活・こどもの歌の弾き歌い	歌う、弾くの反復練習
7	7/16	演習	指定曲のピアノ演奏、季節・生活・こどもの歌の弾き歌い	歌う、弾くの反復練習
8	7/30	演習	保育所実習課題曲の準備	歌う、弾くの反復練習
9	8/6	演習	保育所実習課題曲の準備	歌う、弾くの反復練習
10	8/20	演習	保育所実習課題曲の準備	歌う、弾くの反復練習
11	8/27	演習	実習のまとめ	歌う、弾くの反復練習
12	9/3	演習	実技試験の準備	歌う、弾くの反復練習
13	9/10	演習	実技試験の準備	歌う、弾くの反復練習
14	9/17	演習	実技試験の準備	歌う、弾くの反復練習
15	9/24	演習	試験	歌う、弾くの反復練習
16	10/22	演習	まとめ	歌う、弾くの反復練習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 こどものうた100、子どものための音楽表現技術など				

科目名 (英)	ピアノ実技 ( Piano practical skill )		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	富樫範子
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 4	開講区分	後期
教員の略歴	国立音楽大学卒業後、幼稚園教諭、知的障害者施設の音楽講師を務める。							
授業の学習内容	子ども向けの歌の簡易伴奏法や、保育実践において必要な技術を習得する。							
到達目標	習熟した音楽技術を用いて音楽性を高める努力をしつつ、保育現場において子ども達の音楽活動を適切に導くために必要な知識や技術を習得する。							
評価方法と基準	授業の受講姿勢(20%) 課題の到達度(40%) 実技試験(40%)							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
17	10/29	演習	指定曲のピアノ演奏、季節・生活・こどもの歌の弾き歌い	歌う、弾くの反復練習
18	11/19	演習	指定曲のピアノ演奏、季節・生活・こどもの歌の弾き歌い	歌う、弾くの反復練習
19	11/26	演習	指定曲のピアノ演奏、季節・生活・こどもの歌の弾き歌い	歌う、弾くの反復練習
20	12/3	演習	指定曲のピアノ演奏、季節・生活・こどもの歌の弾き歌い	歌う、弾くの反復練習
21	12/10	演習	幼稚園実習課題曲のための準備	歌う、弾くの反復練習
22	12/17	演習	幼稚園実習課題曲のための準備	歌う、弾くの反復練習
23	1/7	演習	幼稚園実習課題曲のための準備	歌う、弾くの反復練習
24	1/14	演習	実習のまとめ	歌う、弾くの反復練習
25	1/21	演習	指定曲のピアノ演奏、季節・生活・こどもの歌の弾き歌い	歌う、弾くの反復練習
26	1/28	演習	指定曲のピアノ演奏、季節・生活・こどもの歌の弾き歌い	歌う、弾くの反復練習
27	2/4	演習	実技試験の準備	歌う、弾くの反復練習
28	2/18	演習	実技試験の準備	歌う、弾くの反復練習
29	2/25	演習	実技試験の準備	歌う、弾くの反復練習
30	3/4	演習	試験・まとめ	歌う、弾くの反復練習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 こどものうた100、子どものための音楽表現技術など				



科目名 (英)	教材研究・製作 (Materials Research and Production)		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	横田 重俊
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 ( 2 )	開講区分	前期 水曜・3.4 限
教員の略歴	子どもが喜ぶ 絵本と木のおもちゃや「横田や」店長(40年)							
授業の学習内容	子どもは体験を通して自ら育っていく。 その子どもたちに、人間として生きていく「知恵」を伝える物に「昔話」や「わらべうた」「伝承あそび」があった。 今、保育の場でその役割を担っているものを「児童文化財」という。 それらが何故子どもたちに必要なのかとの講義と製作・実習を行う。							
到達目標	①制作をした児童文化財を子どもたちの前で演じられるようになる。 ②紙芝居の演じ方・絵本の読み方をマスターする。							
評価方法と基準	制作物(80%)実技(10%)平常点(10%) 基準は子どもたちの前で実際に使えるかどうか。							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	6/3	講義	児童文化・児童文化財概論について学ぶ	学んだことを理解する
2	6/3	講義	児童文化・児童文化財研究について学ぶ	学んだことを理解する
3	6/10	講義	絵本について理解する	学んだことを理解する
4	6/10	講義	絵本について理解する	学んだことを理解する
5	6/17	講義	紙芝居について理解する	学んだことを理解する
6	6/17	講義	紙芝居と絵本の違いについて理解する	学んだことを理解する
7	6/24	ワーク	図書館を見学する	学んだことを理解する
8	6/24	講義	絵本の与え方を理解する	学んだことを理解する
9	7/8	実習	絵本の読み聞かせを実演する	学んだことを理解する
10	7/8	実習	紙芝居を実演する	学んだことを理解する
11	7/15	講義	パネルシアターについて理解する	学んだことを理解する
12	7/15	実習	パネルシアターを制作する	学んだことを理解する
13	7/22	実習	パネルシアターを制作する	学んだことを理解する
14	7/22	実習	パネルシアターを制作する	学んだことを理解する
15				
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	教材研究・製作 (Materials Research and Production)		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	横田 重俊
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 ( 2 )	開講区分	前期 水曜・3.4 限
教員の略歴	子どもが喜ぶ 絵本と木のおもちゃや「横田や」店長(40年)							
授業の学習内容	子どもは体験を通して自ら育っていく。 その子どもたちに、人間として生きていく「知恵」を伝える物に「昔話」や「わらべうた」「伝承あそび」があった。 今、保育の場でその役割を担っているものを「児童文化財」という。 それらが何故子どもたちに必要なのかとの講義と製作・実習を行う。							
到達目標	①制作をした児童文化財を子どもたちの前で演じられるようになる。 ②紙芝居の演じ方・絵本の読み方をマスターする。							
評価方法と基準	制作物(80%)実技(10%)平常点(10%) 基準は子どもの前で実際に使えるかどうか。							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	7/29	実習	パネルシアターを制作し実演する	学んだことを理解する
2	7/29	ワーク	おはなし会について理解する	学んだことを理解する
3	8/5	ワーク	おはなし会の実演を見る	学んだことを理解する
4	8/5	実習	スプーン人形を制作する	学んだことを理解する
5	8/5	実習	スプーン人形を制作する	学んだことを理解する
6	8/5	実習	手袋人形を制作する	学んだことを理解する
7	8/26	実習	手袋人形を制作する	学んだことを理解する
8	8/26	実習	手袋人形を制作する	学んだことを理解する
9	8/26	講義	おはなしの小道具について理解する	学んだことを理解する
10	8/26	実習	おはなしの小道具を制作する	学んだことを理解する
11	9/2	実習	おはなしの小道具を制作する	学んだことを理解する
12	9/2	実習	おはなしの小道具を制作する	学んだことを理解する
13	9/9	実習	おはなし会の準備及び練習をする	学んだことを理解する
14	9/9	実習	おはなし会を実演する	学んだことを理解する
15	9/16	実習	おはなし会を実演する	学んだことを理解する
16	9/16	実習	おはなし会を実演する	学んだことを理解する
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	ふれあい実習 ( Friendship Training )		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	増永那津美
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	通年 (前期)
教員の略歴	・仙台市公立保育園保育士(2年) ・認定こども園保育教諭(4年)・仙台医健・スポーツ&こども専門学校こども保育科専任教員							
授業の学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育・教育実習に向け、必要な準備をする。</li> <li>・制作したものを実践する機会を設け、知識・経験を深めて自信に繋がるようにする。</li> </ul>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育・教育実習に向けた必要な準備物が分かり、計画的に準備できる。</li> <li>・保育・教育実習に必要な意欲・態度が分かり、実践しようとする。</li> </ul>							
評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テスト・・・30%</li> <li>・授業態度・意欲・・・40%</li> <li>・出席・・・30%</li> </ul>							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5/13	オンライン講義	オリエンテーション	
2	5/20	オンライン講義	保育所実習に向けて準備ができる	
3	5/27	オンライン講義	保育所実習に向けて準備ができる	
4	6/2	演習	自己紹介の教材を制作することができる	
5	6/9	演習	自己紹介の教材を制作することができる	
6	6/16	演習	自己紹介の教材を制作することができる	
7	6/23	演習	自己紹介の教材を制作することができる	
8	6/30	講義	自己紹介の部分指導案を作成することができる	
9	7/7	講義	自己紹介の部分指導案を作成することができる	
10	7/14	演習	自己紹介の部分指導案を作成することができる	
11	7/21	演習	自己紹介の部分実習を実践・反省できる	
12	7/28	演習	幼稚園実習に必要な教材を制作できる	
13	8/4	演習	幼稚園実習に必要な教材を制作できる	
14	8/18	演習	幼稚園実習に必要な教材を制作できる	
15	8/25	演習	幼稚園実習に必要な教材を制作できる	
16	9/1	講義	保育園実習に向けた日誌の準備ができる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	ふれあい実習 ( Friendship Training )		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	増永那津美
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	通年 (後期)
教員の略歴	・仙台市公立保育園保育士(2年) ・認定こども園保育教諭(4年) ・仙台医健・スポーツ&こども専門学校こども保育科専任教員							
授業の学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育・教育実習に向け、必要な準備をする。</li> <li>・制作したものを実践する機会を設け、知識・経験を深めて自信に繋がるようにする。</li> </ul>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育・教育実習に向けた必要な準備物が分かり、計画的に準備できる。</li> <li>・保育・教育実習に必要な意欲・態度が分かり、実践しようとする。</li> </ul>							
評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テスト・・・30%</li> <li>・授業態度・意欲・・・40%</li> <li>・出席・・・30%</li> </ul>							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9/8	演習	幼稚園実習に向けた日誌の準備ができる	
2	10/20	演習	保育所実習を終えて個別面談をし、振り返りができる	
3	10/27	演習	実習に向けて指導案を作成できる	
4	10/27	講義	実習に向けて指導案を作成できる	
5	11/24	講義	幼稚園実習を終えて個別面談をし、振り返りができる	次回までに2つの実習を終えた感想・反省をの発表原稿をまとめる
6	12/8	演習	次年度の実習に向けて課題を見つけることができる	
7	12/15	演習	壁面制作をする	
8	12/22	演習	壁面制作をする	
9	1/19	演習	壁面制作をする	
10	1/26	講義	実際に壁面を飾り、課題を見つけることができる	
11	2/2	演習	お遊戯の振り付けについて学ぶことができる	
12	2/9	演習	お遊戯の振り付けを考えることができる	
13	2/9	演習	お遊戯の振り付けを考えることができる	
14	2/16	演習	振り付けを発表することができる(試験)	
15				
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	実習プレ ( Practice Pre- )	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	前田有秀
学科・コース	こども保育科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4単位)	開講区分 曜日・時限	通年
教員の略歴	①認可保育園保育士(19年) ②尚綱学院大学総合人間科学部子ども学科専任教員(保育実習指導歴6年)						
授業の学習内容	①教育・保育実習に臨むにあたり必要な準備(保育に関する知識・技術・実践等)を整える。 ②保育実習・教育実習と密接に関連しながら、教育・保育について総合的に理解する。 ③保育現場において実習生に必要とされる知識や技術を習得し、実習で活用できる力を身に付ける。 以上を踏まえ、本授業においては、教育実習 I および保育実習 I (保育所) に向け、実習に向けての心構えや態度、年齢ごとの実習日誌や保育指導案の書き方、保育演習技術(作成・演習等)、実習後の振り返り等について、保育現場レベルでの指導を行う。						
到達目標	①教育実習 I および保育実習 I の目標を達成するために必要な事前準備を整え、保育者の役割と専門性について具体的に理解する。 ②保育現場で求められる保育演習技術を習得する。 ③実習経験を振り返り、今後の実習に向けて課題意識を持つ。						
評価方法と基準	①各授業への取り組み・態度・振り返り等 40% ②課題(実習日誌・保育指導案・教材・まとめ等)の作成・提出・内容等 40% ③演習発表(実践・振り返り等) 20% 上記の各項目が50%以上、かつ総合して60点以上を単位認定とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5月22日	オンライン講義	保育所と幼稚園の1日を知ることができる	教科書やプリントから各施設の特徴をまとめる
2	5月29日	オンライン講義	保育所実習の意義と目的を理解できる	教科書やプリントから実習のイメージをまとめ
3	6月5日	演習	保育演習技術を習得することができる	手遊び・絵本・紙芝居等の練習をすること
4	6月12日	講義・演習	部分実習を理解する(設定保育と保育指導案)	教科書やプリントから授業内容を復習すること
5	6月19日	演習	教材研究(紙皿シアターの制作①)	教材制作に必要な材料を準備すること
6	6月26日	演習	教材研究(紙皿シアターの制作②)	教材を完成させ、演じ方を練習すること
7	6月27日	演習	教材研究(ペープサートの制作①)	教材制作に必要な材料を準備すること
8	6月27日	演習	教材研究(ペープサートの制作②)	教材を完成させ、演じ方を練習すること
9	6月27日	講義・演習	乳児の発達と保育内容を理解できる(0~2歳)	教科書やプリントから授業内容を復習すること
10	6月27日	講義・演習	実習日誌の書き方を理解できる(保育所)	実習日誌の書き方の基本を復習すること
11	7月3日	講義・演習	実習日誌の書き方を理解できる(発達段階との関係)	発達段階を関連させながら日誌をかけるようにすること
12	7月10日	演習	保育所実習 I を振り返る(スライド作成①)	保育所実習 I の学びをスライドにまとめること
13	7月17日	演習	保育所実習 I を振り返る(スライド作成②)	保育所実習 I の学びのスライドを完成させること
14	7月31日	講義	教育実習 I の実習内容を理解できる	教育実習 I の日誌の振り返りをする
15	8月7日	講義	3歳以上児の発達段階と保育内容を理解できる	教科書やプリントから授業内容を復習すること
16	10月22日	講義・演習	実習日誌の書き方を理解できる(幼稚園 I)	実習日誌の書き方の基本を復習すること
17	10月29日	講義・演習	実習日誌の書き方を理解できる(発達段階との)	発達段階を関連させながら日誌をかけるように
18	11月1日	講義・演習	部分実習の保育指導案を立案することができる	保育指導案を完成させ、模擬保育の練習をする
19	11月1日	演習	保育指導案を実践し理解することができる(部分)	模擬保育演習の準備・練習・振り返りをする
20	11月1日	講義・演習	実習前の準備を整えることができる	教育実習 I に向けての準備をする
21	11月1日	演習	教育実習 I を振り返る(エピソードから)	教育実習 I のエピソードをまとめておく
22	11月26日	演習	教育実習 I を振り返る(部分実習から)	教育実習 I の部分実習での経験をまとめておく
23	11月26日	演習	教育実習 I を振り返る(スライド作成①)	教育実習 I の学びをスライドにまとめること
24	12月3日	演習	教育実習 I を振り返る(スライド作成②)	教育実習 I の学びのスライドを完成させること
25	12月10日	講義・演習	自己課題を明確化することができる	保育所実習 I ・教育実習 I の反省をまとめてお
26	12月17日	演習	教材研究(パネルシアターの制作①)	教材制作に必要な材料を準備すること
27	1月14日	演習	教材研究(パネルシアターの制作②)	教材の制作を進めること
28	1月21日	演習	教材研究(パネルシアターの制作③)	教材を完成させ、演じ方を練習すること
29	1月28日	演習	実習経験を仲間と共有する(実習報告会発表練習)	発表練習を行い、実習経験を振り返ること
30	1月30日	演習	実習経験を仲間と共有する(実習報告会)	3年次の実習に向けて自己の課題を見出す
準備学習 時間外学習			指示された課題のみならず、関連する科目・内容を振り返り、自主的に実習準備を進めること	
【使用教科書・教材・参考書】 小櫃智子編著『幼稚園・保育所・認定こども園 パーフェクトガイド』わかば社、2017年 『幼稚園教育要領(文部科学省)・保育所保育指針(厚生労働省)・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(総務省)』フレーベル社、2018年 片山紀子編著『新版 保育実習・教育実習の設定保育』朱鷺書房、2013年				